

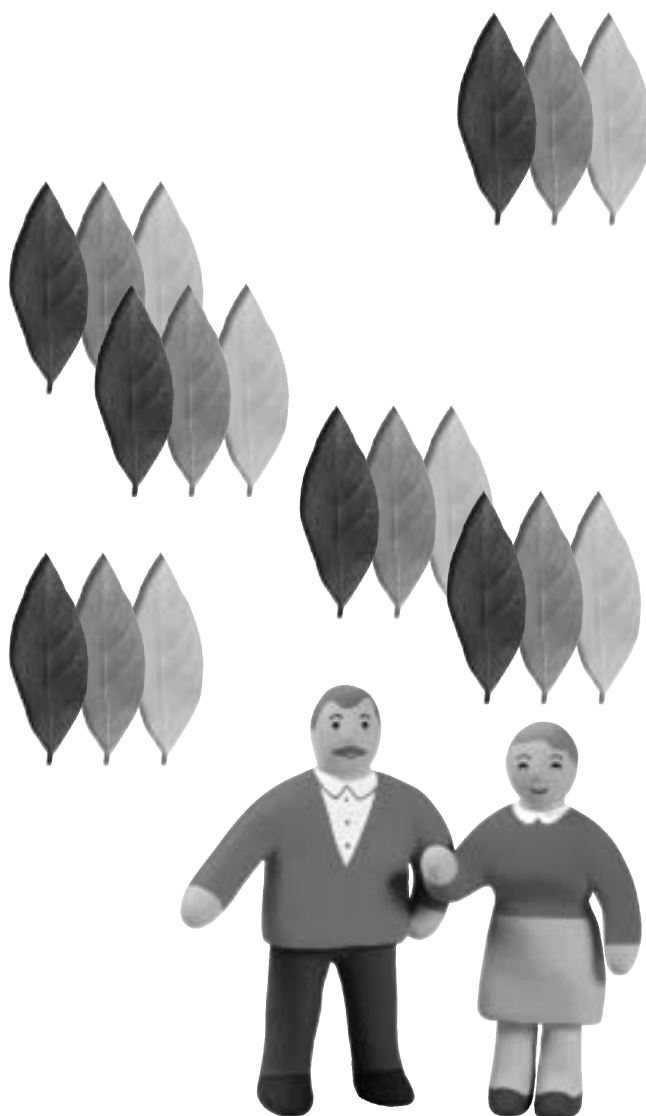
さまざまな学習をさかんにしよう

各論(基本計画)

第1章 生涯すべての場面で自由な学習ができるように

第2章 暮らしと時代に根ざす学習の展開

第3章 生涯学習事業の推進体制づくり



第1章 生涯すべての場面で自由な学習ができるように



1. 家庭における教育・学習を高めるために

人間の「原型」を形成する場として、私たちがはじめて「学習」に出会う場として、家庭はきわめて大きな役割をもっています。

かつて、家庭は、祖父母・両親、多くの兄弟姉妹からなり、家族全員がそれぞれの役目をはたしながら子どもを健全に育てる伝統とシステムがありました。

しかし、今日、社会経済環境の変化に伴い、家庭がもともともっていた教育力の低下が指摘され、その対策が必要とされています。

(1) 家庭に対する学習の充実とこころの手助けを

親が子どもをどう育てているのかわからない、子どもとどう関わっているのかわからないという現状の解決をし、親が自信をもって子どもを育て、しつけることができるように親自身の学習が大切ですし、その学習を助ける施策が必要になります。

- ア 家庭教育の重要性、親の責任と役割を十分に周知・啓発すること。
- イ 乳幼児期、児童期、青年期それぞれの発達段階に応じて、必要な生活習慣、社会性、積極性を身につけさせるために所要の知識や指導の方法を情報として親に提供するために子育てに関する情報の一元化をすることが重要です。
- ウ 家庭教育についての相談、学級、教室の開催、指導者の育成と紹介につとめるために育児相談を専門的に行う行政組織やNPO等が必要です。
- エ 家庭教育を地域の問題としてとらえ、世代を超えた交流により、お年よりの子育ての体験を生かす場、若い親たちの子育ての学習会の場などのサークルづくりをすすめ家庭生活に必要な知識を体験する機会を設ける必要があります。
- オ 託児機能を備えた施設の充実と、学習機会の場に行きやすい託児機能を備えた場を設けることが必要です。
- カ 「だめだ! 危ない! 」といった親(大人)の意識は、子どもの挑戦しようとする気持ちを阻害してしまいます。

(2) すべての子どもがのびのびと育つ環境と社会づくりを

都市化がすすみ自然の遊び場が失われ、女性の社会進出や学習意欲がたかまり子育てとの両立に工夫がせまられるなど、子どもと家庭をとりまく社会状況の変化に対応できる施策が必要です。TVゲームや携帯電話の普及で、孤独な時間の増加も大きな問題となっています。

- ア 豊かな郷土の自然のなかで家族ぐるみのふれあいと学習ができるような機会をつくるのが大切です。
- イ 核家族化、少子化などによる家庭の教育力の低下を補完するため、家庭・学校を地域の一部として考え、親子が地域の人とともに学び、世代間、地域間の枠を超えた各種行事に参加できる機会を増やし、参加を促すこと。このために、地域で中高生が育つ力を引き出す公民館や社会教育の役割は重要です。
- ウ 障害児をもつ家庭への学習支援は、行政と学校と地域が連携し、それぞれの状態に応じて適切な支援ができるようにすること、そして、また、障害児と共に歩むことの大切さを考える学習が必要です。
- エ 子どもや若者の気持ちを汲み取り、社会に反映させるため、子どもや若者が自由に話せる場をつくるとともに、子供たちに夢を語りかけることが大切です。

これらの施策のほか、とくに共働き世帯の増加をふまえ、子育てと仕事の両立を助けるための保育制度の充実や育児休業制度の拡大を雇用者側へ働きかけることが重要です。



2. 学校を「地域の学校」「おらが学校」に

次代を担う子どもたちに、夢と可能性を広げる教育が求められています。将来の社会人として生き抜く力を身につけるための教育は、あらゆる場で行われなければなりません。

特に、生涯学習のなかで学校教育が果たす役割は、きわめて重要です。それは、感性の柔軟な時期に学ぶことに専念できる機会として貴重であるだけでなく学校がもつ大きな教育・学習の機能を児童・生徒・学生に限らず、広く「地域の学校」「おらが学校」という地域に根ざした学校になる可能性をもっているからです。

(1) 学校教育が世の中と結び付くように

- ア 将来の地域のにない手として郷土の自然や環境、歴史や伝統、生産や生活の姿をいきいきと学ぶことが大切です。このため、「他のかかわり」が学習の本質であり学校と地域とのかかわりを創ること、施設としての学校からシステムとしての学校へ移行することが必要です。
- イ 「いじめ」「不登校」「非行」「犯罪の低年齢化」の増加傾向をふまえ、学校・家庭・地域の連携を密にして未然防止に努めるとともに、フリースクール等の対応も必要です。
- ウ 障害をもつ児童生徒については、できる限りその能力を伸ばし、自立と社会参加を積極的にサポートする教育が大切です。また、障害児とともに歩むことの大切さや命を考える授業も行います。
- エ 高校進学率が高まる一方で高校を中退する生徒の増加も無視できない実情です。画一的な高校のありかたを見直し、多様な個性や志向、異なる関心や適性に見合った個性ある学校づくりを積極的に進め、地域の伝統やニーズにそった特色ある学科の新設、転科、転校の弾力的運用をはかる必要があります。
- オ 学校週5日制にともないできた時間的余裕の有効活用のための場作りが必要です。
- カ 地区育成会等の強化及び各団体間の情報の共有・たまり場としての学校開放の推進。
- キ ボランティア活動を助長することが必要です。
- ク 「地域スポーツ指導者」と「学校スポーツ指導者」との交流連携を図ることが必要です。
- ケ 教育や学習資材を積極的に地域に開放し、また教員が、積極的に地域へ参加し、地域指導者を育成することが大切です。
- コ 世界各地で紛争が起きています。身近にある戦争体験(戦争遺跡)

を記録に残す活動を部活動等で行なうことは、命の尊さと平和について考える機会となるものです。命がなぜ大切か?それは、ひとつの命の繰り返しが効かないからです。

- サ 学校評議委員制度やコミュニティスクールなど学校に地域の人を参加させる営みが始まっています。学校への苦情等に終わらず、学校と地域が共に考え、同じ目線に立って子どもたちを育てる学校教育が望まれます。私立学校の理事会会のような地域住民主体の学校運営委員会もあります。

(2) 専門教育と高度な学習の場の充実を

技術の多様化・高度化、企業形態の多様化・専門化などを背景に専修学校や各種学校が増えています。

こうした傾向がすぐれた人材の育成に役立つだけでなく、さまざまなかたちで多くの市民の生涯学習の向上のためにも大きな力となることが期待されます。

- ア 大学や短大のもつすぐれた教育機能は地域の大きな財産です。講座の公開、聴講の枠の拡大など一般市民とのつながりを深めるほか、リカレント制度(社会人の再入学)の導入も期待されます。今後の大学等高等教育機関の連携強化としては、大学の機能が地域課題に取り組み、解決の道筋をつける支援として大学が地域の産業機関や行政と共に新しいまちづくりにそのノウハウを活かす取り組みが重要となってきました。
- イ 専修学校や各種学校などには、すでに職業に就いている人たちが学びたい学科やコースが多くあります。夜間や休日の開講など利用しやすい開放が期待されます。
- ウ ポリテクセンター関係施設などとの連携も必要です。



3. 生涯学習と社会づくり

社会教育は、家庭教育、学校教育と並ぶ教育の三本柱の一つです。しかし、「生涯学習」は、もっと大きく、この三つをまとめて人の生涯にわたって行われる学習をさします。ですから、社会教育イコール生涯学習とはいえないのですが、本市においても、これからの生涯学習事業の推進は、やはり、従来の社会教育事業の流れと成果をふまえてすすめてゆくこととなります。地域の課題を地域で見つけ、その課題を地域で解決するために学習し、実践することがこれからのめざす生涯学習となります。そのために、施設間の相互交流、世代・地域を超えた活動の推進が必要です。

(1) 社会人教育の充実と発展を

- ア 公民館をはじめ多くの施設で積極的に自主的なすべての学習の支援をすすめます。
- イ 地域の問題や関心、暮らしや教養や趣味など学習参加者のニーズに応えるテーマで、できるだけ身近に学習の機会をつくってゆきます。そのために行政が住民の中に積極的に出て行くことが必要となります。
- ウ 時間的に余裕のない労働者層が学習できるように、会社での研修の必要性を呼びかけ、夜間の施設開放など、そのための環境づくりを行います。
- エ 女性の学習、仲間づくりの場として女性の参加しやすい運営に配慮することが必要です。
- オ 暮らしや行政の広域化の時代をふまえ、同じテーマで学習する他の自治体の仲間との交流も期待されます。

(2) 高齢者の学習参加の促進と世代間交流による地域づくりを

現在では、時間や生活にゆとりのある熟年者の学習意欲が高まっています。このことを老後の楽しみととらえず、このチカラを生涯学習の成果として活用する方法はないか考えることが必要です。活動がマンネリ化にならないように、世代や地域を超えた活動ができるようにすることも大切です。

また、高齢者が被害者となる犯罪の増加等の社会問題に対する情報発信も必要です。介護や高齢者の人権問題を考える取り組みも行います。

- ア 体力に合ったプログラム、交通の便宜を考えた参加しやすい会場設定などの配慮が必要です。
- イ 若い世代との交流、学習を通しての仲間づくりや交流をすすめ、高齢者の技能や知識を活かした地域づくりに生きがいとして取り組めるような活動の支援が大切です。

- ウ 地域ボランティアなどの行動的なテーマとともに、防犯・交通安全・悪徳商法への対処など、日常生活に役立つ学習テーマを重視することも大切です。
- エ 郷土に固有の伝統技能、伝統芸能、祭事・口碑などの保持や継承に積極的にかかわり、若い世代に伝えることも必要です。
- オ 学習を通しての仲間づくりや交流をすすめ生きがいを地域づくりに役立てるために地区公民館、町内公民館、福祉ひろば等施設の連携が求められます。

(3) 地域で若者を大切にす社会づくりを

学校以外にも青少年の学習の場と機会がととのえられなければなりません。青少年が心から安心できる居場所を地域でつくって見守ることが大切です。また、地域間、世代間、健常者と障害者の枠を超えた交流ができる機会が必要です。

- ア 地域において子どもたちの自主的なスポーツ活動を育てたり、伝統行事などの文化活動への参加をすすめることが大切です。
- イ 文化財保護、環境美化、ボランティアなど地域での活動を通して、地域の理解を深め愛着をもつよう導くことが大切です。
- ウ 伝統行事などへの参加にあたっては、子どもが自分たちで作り上げるものを大切にし、自主的な運営にまかせてのびのびとした創意工夫と満足感をもたせることが必要です。
- エ 正しい国際感覚をつちかうため同世代の外国人との交流の場をつくるなどの努力が望まれます。
- オ 地域の公民館、図書館、博物館、児童センター、スポーツ施設などがそれぞれの立場で子どもたちの学習の場・参加の場づくりに努めることが期待されます。
- カ また、成年、未成年を問わず、障害をもつ方々が広く生涯学習の場から疎外されることのないよう十分に留意されなければなりません。とくに自立をめざす社会参加のためには、できる限りの支援がなされなければなりません。



4. 夢がもてる職業人を育てるために

職業の多様化と職業にともなう技術・技能の細分化・高度化を考えると、職業訓練、職業教育、企業内教育などは生涯学習の一環として重要であり、「つくる」ことの大切さを教え、満足できる経験体験ができるように、その充実をはかる必要があります。

(1) 職業教育等の充実を

- ア 不況により再就職ができなかったり、将来夢がもてないフリーターの増加を考え、技術・技能を持った者がそれを社会に生かせるように、職業訓練施設等の一層の整備、拡充や、再就職の支援に力を注がなくてはなりません。
- イ 高校では、魅力と個性ある高校づくりとあわせて、社会とつながりを持った体験学習をし、夢の持てる仕事のPR等を積極的にすすめる必要があります。
- ウ 新しい時代の需要に見合った訓練コースの設定や機器の導入などをはかるとともに、施設の活用をポリテクセンター等とも連携し、一層市民に働きかけてゆくことが大切です。
- エ 育児などのためいったん離職した女性の再就職を容易にするための仕組みをつくりあげることなどがさらに必要です。
- オ 技能検定制度の拡充、卓越技能者の育成と地位向上などにつとめ、すぐれた技能・技術をもつことの尊さをひろく市民に知らしめ、技術等を持っている者に対して社会的評価を向上させる方策が大切です。

(2) 人材を育てる企業教育力の向上を

すぐれた人材が企業の財産であることはよく理解されています。このため企業内教育はさかんに行われていますが、今後は企業にとって必要な知識や技術の教育・訓練だけでなく、よりよい人格形成と地域貢献のための総合的な教育・学習の拡充が望まれます。

ア 企業は厳しい経済状況ではありますが、社会人としての常識、知識を学ばせる責務のあることを自覚することが大切です。労働の達成感や自信などは長年働いてようやく分かるものです。若者を育てることが社会にとってどれだけ重要であるか改めて考えたいものです。

イ 激しい技術革新、情報化、国際化などに対応するため、企業はあらゆる学習機会を活用して従業員の教育研修をすすめるとともに、出向・派遣・リカレントなどを通じて大学や官民と連携し、人材育成に努める必要があります。

ウ 職業教育の開発だけでなく、企業内教育を従業員一人ひとりの自己啓発学習としてとらえ、豊かな社会人に育つようフレックスタイム制、長期学習休暇制、生涯学習指導体制、ボランティア休暇制度の導入に努めることが望まれます。

エ 現在では企業の社会貢献はあたりまえのように言われていますが、従業員個人個人の意識の向上が地域貢献づくりにつながるような制度の導入が望まれます。

オ よりよい人格形成に必要な企業内人権教育の充実と、企業人権啓発推進連絡協議会等の設置を積極的に行えるような呼びかけが必要です。



5. 市民の自主的な学習活動の支援を

市内にはカルチャースクール、スポーツクラブなどが増加している傾向もみられます。

このように日常生活に結びついた団体の学習や民間の教育事業として定着してきた学習活動の強化や活用も、これからの生涯学習にとって大きな課題です。またこの成果を自主的に地域づくりにも生かせる支援が望まれます。それぞれを認め合い、自由に語り合える場の保障が大切です。

- (1) 地域コミュニティの再構築には、町会や町内公民館の活動が重要な役割を持ちます。そのための生涯学習を地域で盛り上げることが期待されます。
- (2) 団体活動を支援するために、指導者の養成とネットワーク化、地域を創造する拠点施設(公民館等)の活動拠点の整備などが必要です。
- (3) カルチャースクール、スポーツクラブなど民間教育活動やNPOも、市民の需要と志向にこたえて活発化し、行政ではできない面を活用することが望まれます。
- (4) 行政は、民間教育事業団体や文化関連業界(書店、ギャラリー、スポーツ用品店、楽器店)などやNPOと連携をとり、多様な講座や文化イベントの開催をうながす必要があります。また、市民による実行委員会で行う学習活動は行政による支援が重要です。